

令和5年春期の県内植木市場における取引動向

愛知県植木センターでは昭和61年(1986)から県内の植木市場において、主に地元から出荷される緑化樹木を中心に21品目(一般植木、株・玉物、生垣用樹)の取引量を春期(2月～4月)と秋期(10月～11月)に調査しております。また、平成20年(2008)からは近年市場でよく見られる10品目を追加して調査しております。今回は本年春期の取引動向の概要について紹介します。

1 全体取引量(追加樹種を含まず)〔図-1〕

近年の全体取引量は、平成22年(2010)以降減少傾向が続き、平成28・29年(2016・2017)は増加に転じたものの、翌年から再び減少傾向となり、今期も減少しました。

全体では前年同期(約11.5万本)から減少し、9.8万本で、前年同期比は86%となりました。用途別では、一般植木は前年同期比105%、株・玉物は79%、生垣用樹は80%で、一般植木が持ち直したものの株・玉物、生垣用樹の減少が見られました。

2 用途別の取引動向(追加樹種を含まず)〔図-1、図-2〕

(1) 一般植木(12品目)

一般植木の取引量は約2.8万本で、前年同期(2.7万本)より約0.1万本増加しました。平成10年代前半は10万本を超える取引量でしたが、20年代後半には4万本程度まで減少し、最近では3万本前後の取引量となっています。

取引量の多い品目は、自然形ではカエデ類が多く、続いてキンモクセイ、ツバキ、ヒバ類で昨年からの減少しました。仕立物ではイヌマキが増加しましたが、イヌツゲは低調のままで、全体では減少傾向でした。

(2) 株・玉物(5品目)

株・玉物の取引量は約5.1万本で、前年同期(6.5万本)より約1.4万本減少し、下げ止まりの状況かと思われます。

株・玉物は、サツキ、ツツジ類、イヌツゲで約98%を占めています。

(3) 生垣用樹(4品目)

生垣用樹の取引量は約1.8万本で、前年同期(2.3万本)より約0.5万本減少しました。平成10年をピークに減少が続き、今期はピーク時の10%以下まで減少しました。

取引量の多い品目は、サザンカとイヌマキで、生垣用樹の約93%を占めます。今期はイヌマキとマサキが減少し、全体量を押し下げました。

3 調査追加樹種(10品目)を含む調査結果〔図-3、表-1〕

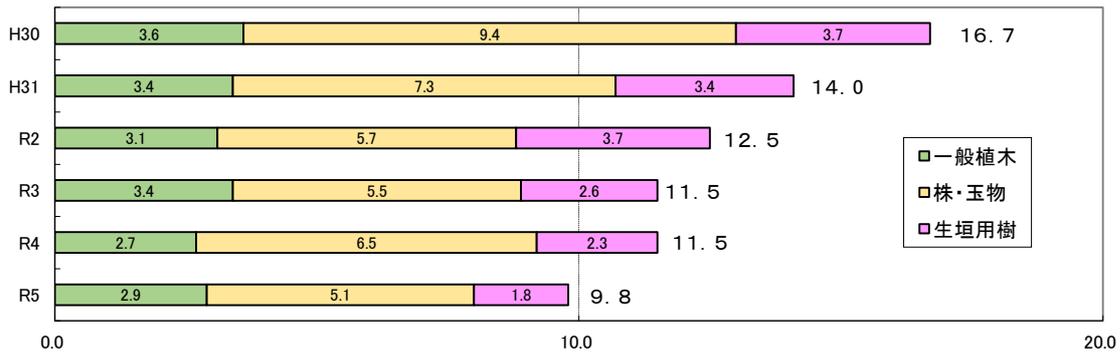
平成20年(2008)から、近年市場でよく見られる樹種を、調査対象として追加しました(一般植木ではハナミズキ、シマトネリコなど7種、株・玉物ではドウダンツツジなど3種)。

追加樹種を含めた取引上位10品目では、従来からサツキとツツジ類が上位を占めています。今期は、カエデ類が増加して順位を上げ、一方、オタフクナンテン、シマトネリコが減少し、順位を落としました。

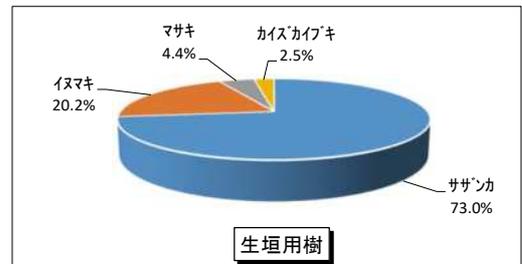
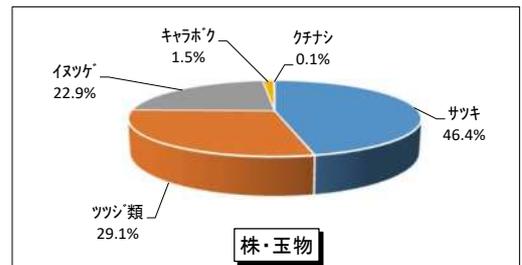
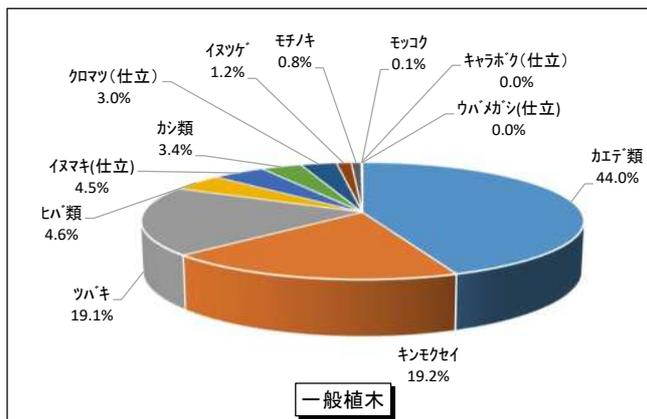
調査市場

農事組合法人 井堀植木生産組合(稲沢市井堀江西町)
矢合植木市場株式会社(稲沢市矢合町)

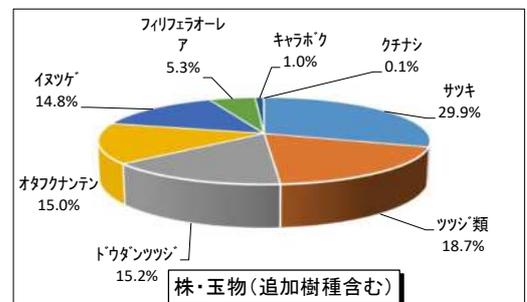
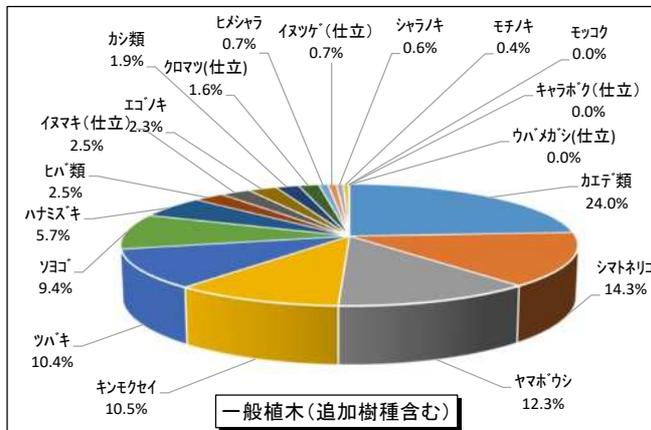
図一 春期取引量の推移（単位:万本）



図二 春期取引量の区分別構成比（%）



図三 春期取引量(追加樹種含む)の区分別構成比（%）



表一 春期取引量上位10品目(追加樹種含む)の動き

順位	令和3年			令和4年			令和5年		
	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比
1	サツキ	株	...	サツキ	株	...	サツキ	株	...
2	ツツジ類	株	↑	ツツジ類	株	↗	ツツジ類	株	↘
3	シマトネリコ	一	...	オタフクナンテン	株	↗	サザンカ	生	...
4	オタフクナンテン	株	...	サザンカ	生	...	カエデ類	一	...
5	サザンカ	生	↓	シマトネリコ	一	...	ドウダンツツジ	株	...
6	カエデ類	一	...	ドウダンツツジ	株	↗	オタフクナンテン	株	↘
7	ドウダンツツジ	株	...	イヌツゲ	株	↗	イヌツゲ	株	...
8	イヌツゲ	株	↘	カエデ類	一	...	シマトネリコ	一	↓
9	ハナミズキ	一	...	ツバキ	一	...	ヤマホウシ	一	...
10	イヌマキ	生	...	ヤマホウシ	一	...	キンモクセイ	一	↑

・前期比単位 ...: ±20%未満 ↗ : +20%以上40%未満 ↘ : -20%以上40%未満
 ↑ : +40%以上 ↓ : -40%以上 — : データなし

・区分 一: 一般植木 株: 株・玉物 生: 生垣用樹